

作問意図

1. 論述問題

(1) 授業実践探究コース問題

授業実践探究コースでは、授業づくりにおいて理論と実践の往還を重視し、教育の最新動向を踏まえた実践的研究を進めている。近年、子どもたちの多様化が進む中で、令和の日本型学校教育では、「指導の個別化」と「学習の個性化」により個別最適な学びを保障しつつ、「協働的な学び」との一体的な実現が求められている。ICT の活用による学習状況の可視化や、子ども同士の対話・関わりの中で生まれる深い学びの価値が注目されており、今年度は、こうした視点から多様な子どもに対応する授業実践の在り方についての理解を問う問題を出題した。

(2) 子ども支援探究コース問題

子ども支援探究コースでは、様々な背景を持つ子どもたちの支援を研究するために、生徒指導や教育相談の基礎用語をおさえておくことが必要である。今回の問題では、生徒指導提要（改訂版）を題材として、生徒指導の目的を正しく理解し、その目的達成のために必要な学校の取り組みを論理的に考察する力を評価している。また「自己理解」、「自己指導力」、「心理的安全性」という 3 つのキーワードを全て用いて記述させることで、個に応じた支援と学級・学校全体での組織的対応についての理解を問う問題となっている。

(3) 教育経営探究コース問題

「学校評価」が制度的に導入されて約 20 年が経ち、ほとんどの学校が実施はしているが、現場教員からはそれが効果的に「学校改善」のために活用されているという意見はほとんど聞かない。むしろ「形骸化している」という声をよく聞く。他方で、学校評価自体は学校改善に向けての重要な指針を導出するために重要なものであり、毎年一定程度の労力と時間をかけて作成されている。だとすれば、これをどのようにして有効活用するかという視点は、今後のスクールリーダーには求められるところである。そこで、学校改善に向けた学校評価のあり様を、特に「校務分掌」、「組織マネジメント」、「PDCA サイクル」に着眼してどのように考えるかを問う問題を出題した。

2. 口述試験（場面指導）

ヤングケアラーの問題は、家庭内の繊細な事情に関わるため、支援が必要であっても周囲に気づかれにくく、表面化しづらい傾向にある。また、事案が発見されても、適切な窓口につなぐことができないといった問題もある。この問いは、ヤングケアラーという社会的課題に対して、教職員が児童生徒

の行動の変化をその背景から適切に理解し、担任としてどのように支援するかを問うものである。担任は、日常的に児童生徒と関わる中で変化に気づきやすい立場にあり、早期発見と支援の入り口としての重要な役割を担っている。生徒児童理解、具体的な支援の提案、校内外の連携、学級経営、倫理的配慮といった実践的な指導力が必要となる。